

評価基準
 良い…5点 やや良い…4点
 普通…3点 やや不十分…2点
 不十分…1点

静岡県中部看護専門学校 組織運営 自己点検・自己評価表（平成28年度）

評価項目		評価資料	評価の視点	評価点	評価内容	今後の課題	第三者評価	
大項目	小項目						評価点	内容
I 学校 経営	1. 志太広域事務組合における看護学校の意義・役割及び目標を教職員が理解している。	教育事業実施計画 運営組織図 学生便覧 学校運営会議録 年報	・志太広域事務組合における看護学校の意義・役割、教育理念を策定し、それを教職員が周知している。 ・組織目標は文章化し学校以外にも公表している。 ・中、長期的な検討をしている。	3点	開校後27年が経過し、社会情勢の変化もあり設置主体に求められるニーズも変化してくると予想される。（少子化や大学志向等及び地域包括ケアシステムによる看護の場の拡大など）今後の看護学校のあり方を学校運営協議会で審議した。しかし、その結果を事務局や教職員で十分に共有するまで至らなかった。 看護学校の各課の（庶務課・教務課）の具体的で現実的な目標は掲げていない。	志太広域事務組合として地域に貢献できる看護師の育成にはさらなる工夫や改善が必要である。 今後の看護学校の意義・役割は学校運営協議会での将来構想の検討やカリキュラム改正を見込み検討を重ねていく必要がある。 教職員に速やかに情報提供し、共有する。 各課の（庶務課・教務課）の具体的で現実的な目標を掲げていく。	3点	志太広域の看護教育のニーズを庶務課・教務課と連携し、学校経営することが望ましい。評価の視点は明確であるので、今後は具体的で現実的な目標を挙げてほしい。
	2. 教育事業重点目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげている。	教育事業実施計画 運営組織図 年報 各会議録	・教育事業重点目標を設定する際に、教職員の意見を取り入れている。 ・前年度の評価を活かした目標である。 ・目標を評価し、次年度の課題を明確にしている。 ・評価結果を教職員に周知している。	4点	教育事業重点目標と教育事業実施計画（業務分掌）については教職員の意見を取り入れて立案し、教員会議、運営会議で周知している。 28年度は自己点検・自己評価システムを整えた。教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会を実施し、職業実践専門課程の申請に向け取組んだ。また、地域包括支援センターでの実習を開始するとともに、精神看護領域の実習施設の拡大も行った。倫理観の育成については、実習目標に入れる検討ができた。 実施結果については運営会議や教員会議で報告し周知している。	29年度はタイムリーな自己点検・自己評価を行っていき、職業実践専門課程の申請をしていく。	4点	評価の視点に沿って丁寧に評価されている。今後も継続してほしい。
I 学校								

<p>経営</p>	<p>3. 学校組織図（意思決定システム）を基にした、運営（協議会・委員会・会議等）がなされている。</p>	<p>教育事業実施計画 運営組織図 組織運営自己点検・自己評価表 各会議録</p>	<p>・それぞれの運営組織において、重要事項の検討および共通認識の場として機能している。 ・それぞれの運営組織において意思決定した内容の共有化を図っている。</p>	<p>5点</p>	<p>運営組織図を作成することにより各会議の関連や位置づけが明確になり意思決定システムが明確になった。 教育活動の質の向上のため、学校関係者評価委員会年3回、教育課程編成委員会2回を立ち上げ実施できた。両委員会は初めて開催した。 学校の将来構想について審議する学校評価委員会を学校運営協議会と改め年2回開催し、将来構想について継続的に審議することができた。 協議会、委員会、各会議の内容は教員会議で報告・伝達されている。</p>	<p>5点</p>	<p>評価の視点に沿って丁寧に評価されている。今後も継続し、職業実践専門課程の申請を早期にしてほしい。</p>
<p>I 学校経営</p>	<p>4. 組織運営評価を実施し、評価結果を教職員に周知するとともに外部にも公表している。</p>	<p>教育事業実施計画 運営組織図 組織運営自己点検・自己評価表 ホームページ 各会議録</p>	<p>・運営評価結果を教職員に周知している。 ・今後の課題を明確にし改善点を出している。 ・運営評価結果を、ホームページなどを通じて公表している。 ・中間評価を実施し、その結果を後期に活かしている。</p>	<p>3点</p>	<p>運営評価結果は年報・ホームページで報告している。 自己点検・自己評価は全職員で行い周知する機会とした。 第三者評価者による自己点検・自己評価は年度内にできなかった。</p>	<p>4点</p>	<p>自己点検・自己評価の改訂による年度内にまとめられなかったことは残念であるが、評価の視点に沿って、自己点検・自己評価を職員全員で丁寧にやっている。今後も継続を望みたい。</p>
<p>II 教育課程</p>	<p>5. 教育理念を基に卒業時において持つべき看護師の資質を明示し、教育目的・目標に反映させている。かつ学生の学習の指針となるようわかりやすく示している。</p>	<p>学生便覧 教育課程検討会報告書</p>	<p>・看護師として持つべき資質が、明文化されている。 ・教育目標がわかりやすく示され、学生に説明する機会を設けている。 ・教育目標の妥当性を教員間で確認する機会を設けている。</p>	<p>5点</p>	<p>教育理念、教育目的・目標、年次目標が、学生便覧にわかりやすく示されている。教育目標から降りてきた年次目標は、学生にとって分かりやすい表現で示されており、1年次のガイダンスにて説明をしている。 教育目標の妥当性は平成26年度教育課程検討会で検討し、各年次目標へとつなげていった。 講義、学生指導の際には年次の教育目標に戻り学生と共有しながら達成度を確認している。</p>	<p>5点</p>	<p>2・3年次のガイダンスでもしっかりと伝えていく。また、年度当初だけでなく中間でも意識的に伝えていく。 5年ごとに教員が交代するという当校のシステムに合わせて、新しい教員にも周知していく。</p> <p>学生と学習目標を共有し、教員間においても教育課程の検討を重ね、教育目標の妥当性を検証している。今後も継続してほしい。</p>

<p>・教育活動</p>	<p>6. 各教科目の教育内容は、教育理念、教育目的・目標との一貫性があり、社会のニーズに応える内容になっている。</p>	<p>学生便覧 講義要綱 教育課程検討会報告書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、教育目的・目標が一貫された内容であり、それが明文化されている。 ・教育内容は、社会のニーズに対応した内容を含んでいる。 ・教員間で教育課程を検討し、評価する場を設けている。 ・学校の独自性が盛り込まれている。 	<p>4点</p> <p>教育理念、教育目的・目標は平成26年度検討会で検討されており一貫した内容である。H26年度に育てたい学生像、看護実践力に必要な4つの力と教育目的・目標を照合させ、年次別学習目標まで見直し、社会の変化や学生の状況に合わせた「現代版 年次別学習目標一覧」を作成した。 本校の掲げている看護実践力に必要な4つの力を盛り込み表現された教育目標、年次目標になっていくと良い。</p>	<p>次回カリキュラム改正時には、本校の特徴を盛り込み独自性を出していく必要がある。</p>	<p>5点</p> <p>看護に期待する社会の変化及び学生の状況に応じた学習目標を掲げ、評価の視点に沿って、丁寧に評価されている。今後も継続してほしい。</p>
<p>II 教育課程</p>	<p>7. 教育課程との整合性がある授業計画が作成され、学生が学習内容を理解できるようにしている。</p>	<p>講義要綱 実習要綱 授業案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義要綱、実習要綱の内容は教育課程との整合性がある。 ・講義要綱、実習要綱を作成しており、学生が学習内容を把握しやすいよう記載されている。 ・評価計画を講義要綱・実習要綱に示している。 ・前年度の評価をもとに、各看護学で講義要綱・実習要綱や授業案を検討している。 ・ガイダンス、オリエンテーションを適切に実施している。 	<p>5点</p> <p>教育課程との整合性のある講義要綱・実習要項を作成している。講義要項は評価計画を示し、学生が授業の途中段階で自己評価しながら進められるようにしている。各看護学で前年度の評価を基に講義要綱・実習要項、授業案を検討している。 ガイダンスやオリエンテーションは教育課程の時間として時間割で組み入れ実施している。</p>	<p>学生の道標となるよう、わかりやすいシラバスを今後も作成していくようにする。学生自身も学習者として事前にシラバスをよく読み把握したうえで授業に参加してけるよう促していく。</p>	<p>5点</p> <p>評価の視点が具体的に示され、丁寧に評価されている。また、各看護専門領域で前年度の評価をもとに改善している。今後も継続してほしい。</p>

教育活動	8. 教育内容を保障するために専門性を考慮した講師(実習指導者を含む)・教員を選定している。	・資格・履歴書・研修報告・	・教育内容と講師・教員の整合性を確認している。 ・講師は看護基礎教育に必要な教育内容を理解している。	5点 教育内容を教授していくことのできる専門性の高い講師を選定している。専門科目においては臨床の認定看護師を活用している。 志太榛原地区の関連病院の実習指導者は全員、実習指導者研修を修了しているため指導力が高い。 在宅看護論や精神看護学の担当教員は実務研修を実施している。 講師にシラバスを配布したり、講義前後に学生の状況や講義内容を確認したりし、看護学につながる内容であるか確認をしている。	今後も専門性を考慮した講師・教員の選定を行っていく。	5点 評価の視点に沿って教師・教員を選考するとともに、常に学生の実態と講師・教員の指導状況の把握に努めている。
II 教育課程・教育活動	9. 効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整している。	時間割 時間割変更表 進度表	・年度当初に年間の時間割を提示している。 ・時間割作成時に担当教員と調整をしている。 ・時間割は学生の状況に合わせて作成している。 ・学習の順序性を考慮した時間割になっている。 ・授業変更時には迅速に学生に伝達している。	4点 教員の実習の担当時期や実習中の予定、講義の進度や順序性を最大限考慮し入れている。 年間予定は始業時に提示することは理想であるが、現実困難である。しかし、4月中には年間分を提示している。 大学講師や病院医師が時間割変更は多い。その事情を学生に周知し、変更は速やかに掲示板を利用し伝達をしている。	時間割作成方法として現状のやり方が最適かどうかの検討が必要である。他校の情報も得ていく。	4点 学習進度に合わせた時間割作成を行うとともに、時間割変更には速やかに学生への伝達を行っている。
	10. 授業案を作成し、学生が理解できるよう学習内容や指導方法を工夫し改善している。	講義要綱 授業案 学生による授業評価の結果 年報	・授業案を作成している。 ・学生による授業評価を実施し、授業評価の結果を活用して工夫・改善につなげている。	4点 各自授業案を作成し、授業を行っている。他の科目や単元の進度・内容を共有できるように文書箱やパソコンのホルダに保存する場所を作っているが、保存していない科目もある。 授業評価の効果的な活用を目指すし、評価・改善をしている。授業者が評価結果をどのように授業改善につなげているかを平成28年度調査した。	授業評価の効果的な活用を目指し今後も継続・検討していく。平成29年度に平成28年度の調査を分析し公表する予定である。 授業案を共有するため、保存するよう周知していく。 授業研究は実施していないため平成29年度は実施に向け検討していく。 教員各自が年報の中で授業の指導内容や方法の評価・改善した点を意識して述べていく。	4点 常に、教員が授業の見直し・改善に努め、授業を行っている。平成28年度の授業改善調査結果を次年度に活用してほしかったが、調査結果の報告を期待している。

Ⅱ 教育課程 ・ 教育活動	11. 学生の学習支援のための体制を整えている。	学生指導検討会会議録 学生指導記録 講義要綱	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援の対策を整えている。 ・科目のねらい、目標、学習内容、評価方法などを示し、説明している。 ・学習困難な学生に対して支援している。 ・単位認定できなかった学生に対し、教員は学生の自己分析結果に基づき、対応策を学生とともに考え指導している。 	4点	平成28年度は学力が追いつかず単位を落としてしまう学生、実習においては心身の健康状態を保てず継続が困難な学生が多かった。学習支援方法は学生指導検討会で共有した。保護者にも状況を伝えながら支援をしていった。学年末には親子面接を行い、課題と今後の目標を確認した。学習支援体制としてカウンセリングも活用した。 1年次から主体的に学んで行くための支援の仕方については試行錯誤である。	学習支援については、初年時から国家試験対策も意識し考えていく。自ら主体的に情報を得、行動できるよう、看護学生向けの雑誌の定期購読と国家試験対策として外部のセミナーの勧めについて保護者宛に文書を出す予定である。 入学前プログラムも学習支援と考え、学習の状況を把握し分析していく。入学後の支援につなげていく。	4点	学習支援体制を整え、学習継続困難学生の親子面接等、保護者と課題を共有し支援している。臨床の場においても、学習方法がわからない・期待しないというオーラを出さず新人教育に苦慮していると聞いた。
	12. 実習施設は、教育理念、教育目的・目標を理解し、学生の看護実践を支援するための体制を整えている。	学生便覧 実習要綱 教育課程検討会報告書 実習指導者会議録	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設は教育理念、教育目的・目標を理解し実習指導に臨んでいる。 ・実習施設は各実習の学生のレディネス、実習目的・目標、内容を把握し指導にあたっている。 ・実習施設にはカンファレンスや学習を整理する場が設けられている。 ・実習期間には実習指導者が専任で指導にあたっている。 	4点	28年度の4月の実習指導者会議で本校の教育理念、教育目的・目標を伝えた。28年度の実習指導体制は学生の実習目標やレディネス、傾向などを理解し、学生を尊重した指導体制の下で実施できた。実習施設や指導者の多くは本校の教育理念や目標を理解してくださっていると判断した。理念、目的などの正確な文言でなくても、方向性として学校と一致できている。一部の実習施設では学生室やカンファレンス室などが不足だが調整していただき実習遂行に支障は無かった。	実習施設の確保などは今後も検討し、実習しやすい体制を整えていく。	5点	各実習施設とも教育目標を共有し、実習指導者の配置など実習環境を整えていることがわかる。今後も看護の素晴らしさを伝えられる実習指導体制の構築に努力をしていきたい。

II 教育課程・教育活動	13. 実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協働して実習指導にあたる体制が整えられている。(追加です)	実習病院との申し合わせ事項用紙 実習指導要綱 実習指導案	<ul style="list-style-type: none"> ・実習指導要綱を作成して活用している。 ・指導者会議を開催している。 ・実習指導者と教員の役割を明文化しているものがある。 ・実習指導者と教員の実習前の打ち合わせ、実習後の振り返りを行っている。 ・日々の指導の中で、学習内容や指導方法について教員と指導者で常に意見交換している。 ・より質の高い実習指導体制を整えるために、指導者と教員が参加する学習会などが企画されている。 	4点	<p>実習要項、実習指導案などを活用し、実習指導者との連携を図っている。患者の特性や学生のレディネスなどを情報交換し、協同で面接しながら指導や評価の共通理解を行い、指導の一致を図っている。28年度は病棟指導者と教員のズレも無く、順調に実習指導ができた。指導者会議や連絡会議などで意見交換を行っているが、今後は看護教育や指導について学習会なども検討したい。</p>	4点	<p>年間でテーマを決めた学習会や協同研究なども検討したい。実習指導者会議や連絡会議を活用して指導者のニーズに応じた企画を考えていく。</p>	<p>評価資料をもとに丁寧に評価されている。臨床の場で注意されると思考が停止したり、注意の意味がわからず「いじめ」と受け取る新人など、指導内容の理解を確認する面接が増えていると聞いた。</p>
	14. 実習単位認定のための評価基準と方法を明示しており、かつ評価について公平性・妥当性が保たれている。	実習要綱 実習評価ルーブリック表	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準を書面で提示している。 ・評価方法および評価結果を学生に説明している。 ・実習の評価は複数で行っている。 ・学生はルーブリック表を活用し自己評価をしている。 ・実習評価の公平性・妥当性が保たれるよう評価規準・基準の見直しを毎年行っている。 	5点	<p>全実習でルーブリックを活用した評価を実施し、評価基準の明確化を図っている。また、実習生と実習指導者・教員は中間評価を行い、学習成果と課題を確認しながら進めている。実習評価に対する学生と教員・指導者の大幅な違いは見られなかった。</p>	5点	<p>各領域の評価表の妥当性の検討、検証を教員全体で行ってきたい。</p>	<p>評価規準を提示し、評価を複数で行うなど公正・妥当性に配慮がなされている。常に評価の目的に合う検証を行ってほしい。</p>

II 教育課程 ・ 教育活動	15. 臨地実習において看護を必要とする人々の権利を尊重する考え方にに基づき、倫理的配慮を励行している。	実習要綱	<ul style="list-style-type: none"> ・看護を必要とする人々に事前に説明し、同意を得ている。かつ施設ごとに指定された同意書を交わしている。 ・看護を必要とする人々への倫理的配慮に関するガイドラインを作成している。 ・看護を必要とする人々への倫理的配慮について指導を行い、学生は倫理に基づいた行動を心がけている。 ・倫理的事項に関連した苦情がない。 	4点	看護倫理綱領を前提として実習要項では「注意点、留意点」としてのルールを作成している。受け持ち患者のけ決定は患者の承諾を得て決定している。28年度は患者や他方面からの苦情は無かった。28年度は臨地実習での実習目標（活動目標）として倫理的配慮について共通理解、作成ができた。	作成した看護倫理に関する実習目標の評価を行い修正・改善に繋げる。 実習評価をきちんと進める。	5点	看護における人権擁護・倫理的配慮は看護基礎教育において重要である。倫理的事項に関連した苦情が無いという結果は評価できる。
	16. 医療過誤防止に基づき、学生の実習に対する安全方針を出し、安全教育を行っている。	学生便覧 実習要項 事故報告書 学生指検討 当会議事録 オリエン テーション 指導案	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント発生時のマニュアルを作成している。 ・感染予防の対策を示し、実施している。 ・実習前後に安全教育を実施している。 ・インシデントなどの情報が速やかに報告され、教員間、学生間で共有している。 ・学生が関係したインシデントについて分析し再発予防に取り組んでいる。 	4点	28年度のインシデントレポートは1件だった。インシデント発生に関しては教員会議とレポート回覧によって共通理解を行った。グループメンバーでの共有・検討は行っているが、学生全体への開示は行っていない。感染対策としては抗体価検査と必要時予防接種を行い、インフルエンザ予防接種を実施している。実習学生のインフルエンザ発症の際も実習施設の体制に支障をきたすことなくの学生対応も行えた。	インシデントレポートに対して、学生間での共有活用に関しては配慮が必要である。今後は活用方法の工夫、配慮を含めて共有化へ検討したい。 また実習施設にも報告し、共有についても評価の視点に追加していく。	4点	評価の視点に沿って丁寧に評価されているが、インシデントレポートに関しては実習場との共有に関する記述がほしい。今後も継続してほしい。

<p>II 教育課程・教育活動</p>	<p>17. 教育課程を評価する体系を整えている。</p>	<p>授業評価マニュアル 授業評価結果 保護者への返信用紙 学校関係者評価委員会 教育課程編成委員会 講師会議 実習指導者会議 年報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の反応から講義や教授方法の適切性を確認し、改善につなげている。 ・学生による授業評価を実施し、その結果をフィードバックし授業改善につなげている。 ・第三者評価を実施し、その意見を教育課程に反映させている。 ・評価計画を立案・公表し実施している。 ・学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。 	<p>4点</p>	<p>教育課程を評価する体系として、学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会がある。第三者評価機関からの意見を取り入れ教育課程に反映させている。 シラバスには評価計画を示し、学習活動の評価をしている。 6時間以上の講義においては、学生による授業評価を実施し、その結果を授業者にフィードバックし授業改善につなげている。平成28年度は授業者に授業評価に対するアンケートを依頼した。</p>	<p>教育課程を評価する体系は整えられてきている。第三者評価機関からの意見を取り入れ教育課程に反映させさらに改善をしていく。 29年度はアンケート結果を分析し、更なる改善につなげていく。 実習においても多面的に評価するため多様な評価方法を検討していきたい。 第三者評価者の指摘にもあるように検討していく必要がある。</p>	<p>4点</p>	<p>評価の視点については、様々な機会をとらえ、学生評価及び授業者アンケートも行う等、丁寧に評価されている。実習の評価に受け持ち患者の評価や実習指導者及び管理者の評価も加味できると良い。</p>
<p>III 入学・卒業・就職・進学</p>	<p>18. より多くの出願者を確保することに努めている。</p>	<p>募集要項 入試委員会 議事録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、教育目的・目標から一貫性をもって、入学してほしい学生像を公表している。 ・入学者状況や、入学者の推移から入学者選抜の妥当性を検証している。 	<p>3点</p>	<p>アドミッションポリシーについては、検討しているが明確なものとはなっていない。次年度明確にして募集要綱に明示していく必要がある。 ホームページを見直しし、入学希望者が見やすくした。学校訪問も行い、学校のPRに努めた。入試委員会で選抜方法について検討し、個人面接の時間も延長しているが、選抜の妥当性の検証とまでは至らない。</p>	<p>アドミッションポリシーを明確にし、30年度募集要綱に明示していく。 選抜の妥当性の検証方法を検討していく。</p>	<p>3点</p>	<p>小項目の出願者について「求める学生像」追記すればより明確な評価になる。また、選抜の妥当性は早急な検証を望みたい。</p>

Ⅲ 入 学 ・ 卒 業 ・ 就 職 ・ 進 学	19. 国家試験の合格率が100%となるよう、教職員が組織的に取り組んでいる。	国家試験対策プロジェクト会議録 各年次の国家試験対策	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策の計画が立てられている。 ・各学年の指導方針が明確である。 ・学生の国家試験対策への取り組み状況を分析し、指導に活かしている。 ・国家試験の合格率が全国平均を上回っている。 ・前年度不合格者に対して指導、情報提供をしている。 	4点	<p>国家試験対策プロジェクトにより、各年次の国家試験対策の方針および計画を立てている。3年次に対しては非常勤講師、学内教員による補習講義を行った。また、取り組み状況や模試結果から個別指導を組織的に行っている。結果として100%合格となった。</p> <p>国家試験のための外部セミナーを、学生が自分の個性に合わせて選択できるような見直しを行った。</p> <p>107回看護師国家試験の傾向を捉えた策を検討していく必要がある。</p>	更に組織的な取り組みについて、検討していく。	5点	100%合格は国家試験対策が十分なされていた結果といえる。今後は学生自らが対策と傾向について思慮できるような支援を望みたい。
	20. 卒業時の到達状況を分析している。	卒業時面接記録 面接記録	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、教育目的・目標に照らし、卒業時の到達状況を把握している。 ・多面的に卒業時の到達状況を分析し公表している。 	3点	28年度は看護師養成所指定規則のガイドラインに沿って卒業時面接を行ったが、分析・公表はしていない。その他にも、到達状況を測る方法を検討していく必要がある。	看護師養成所指定規則に沿った卒業時面接の結果を分析・公表していく。 卒業時の到達度を測るものとして何があるのか、何を測るのかを検討していく。 卒業生の臨床評価も参考にしていく。	早急に卒業時面接目的を成文化し分析・公表することが望まれる。新人の臨床評価なども教育目標到達評価になる。	3点
	21. 卒業生の活動状況を把握し、分析している。	同窓会 調査用紙と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・就職先への調査を行い把握する体制を整えている。 ・卒業生との情報交換や調査により、活動状況を把握する。 	2点	関連三病院とは関係が保たれ、情報共有する機会が多いが、調査はしていない。卒業時の活動状況を把握する体制は整っていない。	同窓会を活用し、数年に1回でも良いので継続的に卒業生の活動状況を調査していく。 関連三病院と卒業生の様子や活躍状況の情報交換も積極的に行っていく。	調査も必要であるが、情報交換の逐語記録や分析も大切な資料である。関連三病院看護管理者や同窓会代表者の意見は参考にされたい。	3点
Ⅲ 入 学 ・ 卒 業 ・ 就 職 ・ 進 学 ・ 就	22. 卒業生の地域への就職率を高めるよう努めている。	就職先一覧表 関連地域病院への就職率	<ul style="list-style-type: none"> ・関連地域の病院への就職に向けての説明会を行っている。 ・進路指導において、関連地域の病院の募集情報を収集し提供している。 ・年度の卒業生の関連地域への就職率が %程度である。 	5点	募集要綱にも「地域で活動する意志のある者」と明記し、地域の高校への学校訪問を積極的に行い、地域で活動する意志の学生を選抜している。関連三病院の就職説明会を各年次で行っている。85%以上が関連病院に就職している。	高い地域への就職率を維持していく。	地域への看護師供給率から評価できる。開学年数から、今後は活躍内容の評価も必要となる。	5点

IV 学生生活への支援	23. 就職、進学などの進路について学生の相談に応じている。	時間割 面接記録	<ul style="list-style-type: none"> ・就職説明会を実施し活用している。 ・就職、進学に関する相談にその都度応じ選択の支援を行っている。 	5点	各年次で関連三病院の就職説明会を行っている。各年次で面接を行い、必要に応じて助言している。進学希望がある学生についても、助言等を行っている。	今後も適宜助言を行っている。	5点	評価の視点について丁寧な支援が行えている。
	24. 学業継続支援体制（経済的、精神的側面）を整えている。	募集要項 病院パンフレット カウンセリング実施表 面接事前アンケート 面接記録	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金など経済的支援の情報提供をすると共に、相談に応じる。 ・カウンセリングの目的、カウンセラーの役割を学生に周知している。 ・カウンセリングが必要と思われる学生に、必要時教員から勧めている。 ・カウンセリングを受けようとする学生のプライバシーが守られている。 ・定期的に学生との面接を行っている。 ・必要時には学生やその保護者との面接を行い情報共有している。 	5点	奨学金などの情報提供は、入学前から行っており、関連三病院からの就学支援についての説明会も定期的に行っている。奨学金の貸与について説明もした。また、学生の面接も定期的に行っており、必要に応じてカウンセリングなども勧めている。 保護者とも面接を行っている。実習で精神的な問題がある学生にはカウンセリングを勧めている。希望があれば、保護者のカウンセリングも行うことも学校便りを通して周知している。カウンセリングの周知も掲示板や桂花（学校便り）を通して行っている。	今後も継続していく。	5点	評価の視点について丁寧な支援が行えている。
IV 学生生活への	25. 学生の身体的側面の健康確保に努めている。	健康手帳 検査結果一覧 予防接種推奨の保護者へのお知らせ文 救急薬品一覧	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断を実施し、校医によるスクリーニングがされている。 ・健康診断後の指導、相談がされている。 ・禁煙教育を行い、敷地内は完全禁煙となっている。 ・インフルエンザなどの感染予防対策について周知啓発をしている。 ・救急薬品が補充され、保健室が整備されている。 ・必要時、慢性疾患等のある学生の情報を得て相談にのっている。 	5点	健康診断を毎年行い、校医によるスクリーニングと、検診結果をもとに学生が自己管理するための指導を行っている。慢性疾患のある学生は、個別に健康状態の相談や助言を行った。敷地内は全面禁煙である。インフルエンザは予防接種実施の確認を行い、発症した場合には学生に周知し自己管理および適切な行動をとるように指導している。 慢性疾患や持病に対する薬品の携帯を勧めるとともに、簡単なものではあるが救急薬品の補充を行っている。	今後も継続していく。	5点	評価の視点について丁寧な支援が行えている。今後も継続してほしい。

V 管理運営・財政	支援	26. サークル活動など学生の自主的な活動を支援している。	後援会予算表 サークルメンバー登録表 サークル活動会計報告 自治体立球技大会報告	・学生のサークル活動など自主的な活動の支援体制が整っている。 ・サークル活動など自主的な活動を行うための場所や物品が整備されている。 ・サークル活動の発表や他校との交流の場を設けることを支援している。	5点	サークル活動は学生の自主性を尊重しているが、後援会からの支援体制は整っている。講堂やテニスコートなどはいつでも使える環境を整えている。 発表の機会としては自治体立球技大会や学校祭などがある。	今後も継続していく。	5点	評価の視点に沿って後援会の支援も含め丁寧に評価されている。今後も継続してほしい。
		27. 財政基盤を確保することの考え方が明確であり、教育の質の維持・向上につながっている。	志太広域事務組合例規集 主要事業計画 予算計画書	・教職員はどのような財政基盤によって成り立っているのか理解している。 ・教職員が管理運営に関する意識を持ち、意見が反映できるシステムが整っている。	4点	志太広域事務組合の看護専門学校事業特別会計で一定予算の中で運営されている。今年度も昨年同様の予算額で運営できた。 10年間の財政面を考慮した施設設備計画を作成し、安定した教育環境を整えている。 当初予算ヒアリングでは副校長、庶務課長、両係長が教育の質の向上につなげるためが参加し要求内容の説明をしている。備品管理係や図書係などを中心に教員の意見を取り入れている。	開校27年となり、中長期的に学校の建て替えを視野に入れた計画立案が必要と思われる。 教員会議等で当初予算のヒアリングの経過を説明し、当初予算書の周知を促進する。 教員は行事担当や役割の予算の確認をしていくことから財政への関心を持つことに繋がっていく。	4点	教職員の経営参画意識を育成するためには経営に関する情報の共有も必要と思われる。
		28. 年次事業計画、予算計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っている。	主要事業計画 予算計画書 定期監査報告書	・年間計画に基づき、計画的に予算・事業執行を行っている。 ・計画的に設備備品の充足をしている。 ・組織的に経費の節減対策を行っている。	5点	年間事業計画に基づき予算の範囲で計画的に予算執行を行っている。 学習環境を整えるための備品補充は計画的に行われている。 無駄のない節電対策を実施し空調機やLED交換など計画的に実施できた。節電や裏紙使用で経費節減に努めた。 学生による環境チェックにより徐々に節電意識が高まっている。	今後も適正な予算執行を継続していく。	5点	教職員の経営参画意識を育成するためには庶務課・教務課の予算等情報共有も必要と思われる。

	29. 学生や教職員の 人権・個人情報保護 について十分な対策 がなされてる。	学生便覧 実習要綱 志太広域事 務組合特定 個人情報取 り扱い規定	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護規定が策定されている。 ・個人情報保護規定が学生教職員に周知されている。 ・個人情報保護規定にのっとり管理されている。 	2点	志太広域事務組合例規集の個人情報保護規定に準ずるが、職員への周知が不十分である。 看護学校独自の個人情報保護規定策定されていない。	看護学校独自の個人情報保護規定を策定していく。	3点	個人情報保護法に則り取り扱いが規定されているので、個々の理解が前提である。今後は看護基礎教育における規定策定が望まれる。
VI 施	30. 災害や非常時の 危機管理体制が整備 されている。また、 防犯、交通安全意識 の向上に努めている。	学生便覧 防災訓練計 画・実施・ 評価 学生・職員 緊急連絡網 時間割	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルを作成し、随時見直しをしている。 ・防災計画が立てられている。 ・学生、職員の緊急連絡手段がとられている。 ・防災訓練を定期的に実施している。 ・災害時に必要な食糧の備蓄や備品を備えている。 ・防犯、交通安全講習会などを開催し、学生に受講させている。 ・不審者の侵入に対し監視体制が整備されている。 	2点	地震防災計画はあるが、危機管理マニュアルは不十分。 防災バック（ヘルメット、軍手、防災マップ、笛）を学生一人ひとりに用意している。 職員は志太広域事務組合の連絡網があり、年2回の伝達訓練を実施している。 学生に対して「まちcomiメール」に登録しており、他に連絡網を作成している。安否確認訓練は実施できていない。 防災訓練1回、交通安全教室1回実施。不審者対策として防犯カメラ設置、敷地内フェンスを設置している。	災害時の本校の役割を再認識し、防災体制全体を見直すため事務局に働きかけをする。（消防との連携、発災時の職員・学生の情報伝達や安否確認の方法の見直し、備蓄など）	3点	評価の視点に沿った具体的な策定が望まれる。

施設整備	31. 教育目標達成に必要な且つ安全な施設設備及び教材が整えられている。	施設設備計画書 予算計画書 主要事業計画書 指導調査報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・指定規則に定められている設備、教材が整えられている。 ・設備、教材の点検を定期的に行っている。 ・適切な教材が整えられ、活用されている。 ・障害者利用に配慮された構造である。 ・学生が自主的に学習できるよう整備されている。 	4点	<p>平成27年度に指導調査があり、指定規則に定められている設備、教材が整えられていると評価されている。施設、設備の点検は定期的に行い整備され、活用されている。</p> <p>学生が自由に自主的に学習していけるよう、19時までの校舎使用や国試前の学校の休日開放、学習スペースの整備、学校図書の充実および展示の工夫などを行っている。</p> <p>学生の演習活動ができるスペースがあると望ましい。</p> <p>校舎は4階建てであるがエレベーターは設備されていない。車椅子トイレは1階にあるが、障がい者に対応した設備としては乏しい。</p>	現在の建物では障がい者への設備的配慮、学生の学習スペース確保には限界がある。学校運営協議会において、学校の将来構想と合わせ検討していく必要がある。	4点	平成27年度指導調査結果より評価できる。
	32. 医療の発展や学生層の変化に合わせて、看護教育に必要な施設設備の改善に計画的に取り組んでいる。	施設設備計画書 予算計画書 主要事業計画書	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的事業計画が立案されている。 ・教材備品については、最新の情報をえて、十分検討の上、購入希望の優先順位を決めている。 	5点	<p>医療の発展や学生像の変化に合わせて、教材や施設備品を中長期的事業計画を基に整えている（28年度は電動ベッド、看護技術のモデル人形、体育館の床の塗装など）</p> <p>使用していない物品の整理は適宜行っている。</p>	今後も医療の発展や学制層の変化に合わせて、中長期計画を立てていく。	VI-31評価資料等により計画的な施設設備の点検が行われていると評価できる。	5点

VI 施設整備	33. 学生が円滑に学習でき、学校生活が送れるよう環境が整えられている。	物品表 学生便覧 (校舎管理規定、図書管理規定、コミュニティ規約) 校舎使用簿 施設設備計画書	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が自由に活用できるスペースやホールがある。 ・学生が自主的に学習できるよう整備されている。 ・学生用施設は時間外での使用ができる。 	5点	<p>19時まで校舎使用ができる。また、国家試験対策として土日の校舎開放をしている。</p> <p>学生が自由に活用できるスペースとして、図書室の前室、学生ホール、学生室、ラウンジなどがある。</p> <p>教室には学年で活用していけるよう、献本図書や使用頻度の多い図書、DVDを視聴できる端末を置いている。校内でWi-Fiが使用できる環境である。</p> <p>コンパクトエアコン、電気ひざ掛け、扇風機など省エネにつとめつつも学習しやすい環境を整えている。</p>	<p>学生の状況や希望、第三者評価の意見、などを取り入れながら、今後も環境を整えていく。</p> <p>将来構想とも合わせ検討していく。</p>	5点 評価の視点について丁寧な支援が行えている。今後も継続してほしい。
VI 施設整備	34. 教職員が職務を円滑に遂行できるように、施設設備を整備している。	施設設備計画書 予算計画書 主要事業計画書	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークスペースが確保されている。 ・教育に必要な図書が確保されている。 ・更衣や休息できるスペースが確保されている。 ・教員の研究に必要な検索システムが整えられている。 	4点	<p>職員室と研究室が確保されている。業務に集中できる環境ではない。専用PCが確保されている。図書は教務図書として予算確保しており、予算内で希望図書を購入している。更衣室も完備され個人ロッカーがある。</p> <p>昼休みは学生と講師の対応があり休息時間の確保は難しい。また、休息のスペースはない。</p> <p>検索システムでは医中誌WEBの契約ができ、次年度より使用可能である。</p>	<p>休息スペースがないことは現段階では具体的に検討は難しい。将来構想の中で検討していく。</p> <p>休息時間は交代性など今後検討していく。</p>	5点 設備の運用等で改善が可能であれば検討してほしい。
VII 教	35. キャリア段階別教育計画が立てられているとともに、教員個々が目標を立てている。	教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア段階別教育計画が立案されている。 ・教員個人で目標を立てて、個々の教育活動を評価している。 	1点	<p>新入教員は1年目の教育計画に基づき実施していた。2年目以上はキャリア段階別教育は実施していない。今年度はキャリア段階別教育計画の実施を目指す。</p>	<p>キャリア段階別教育計画案を基に見直しをし、実施につなげることで、教員個々が目標を意識し評価できるようにしていく。</p>	2点 専門職業人として個人キャリア計画と職場におけるキャリアアップ計画の整合性及び連携を考えていただきたい。

職員 の 育 成	36. 看護教育に必要な研修に参加できる体制が整えられ、他の教職員に還元する仕組みがある。	予算計画書 研修報告書 教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学会や研修などに参加できるように計画されている。 ・学会や研修に参加した成果を報告し、他の教員に伝達講習できるような時間や方法をとっている。 	4点	公費負担により全員の教員が1回は学会又は研修に参加できた。報告書を回覧によって共有しているが、伝達講習や意見交換は無い。教員の専門性や役割に応じた継続的な研修等は個人的な努力によることも多い。	研修後の伝達講習は時間を確保して実施したい。教育計画に基づいた研修計画を立てていく。	4点	VII-35の評価資料と関連するが、公的研修と個人的研修の評価が必要と考える。
VII 教 職 員 の 育 成	37. 専門性を高めるために必要な研修を受けられる体制が整えられている。	研修計画・ 報告書 予算計画書	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の中に研修を組み入れ、円滑に授業や実習指導が進められるよう計画している。 	3点	28年度は教員の経験を補うための在宅看護、精神看護の教員研修を実施した。フィジカルアセスメント、災害看護、国際看護など教員の専門性が高い研修が不足していた。	計画的に課題解決、強化に繋がる研修や学会を優先するなど教務課としての研修計画の再検討をしたい。担当領域の専門性を高めるために、傾向や課題などに応じた計画的な研修、雑誌購読を検討したい。教員自らが研修計画を立てて交渉していく。	4点	各教員は教授するための自己研修を行っている。研修支援のために時間確保など、運用面で実施可能なアイデアを自らが持ち寄ることも必要なのでは？
	38. 教員が計画的に授業研修や研究活動を行えるような体制が整えられている。研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援しあう文化的素地がある。	研修計画・ 報告書 予算計画書 研究計画書、報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・他の教員の授業に参加し、授業研修する体制が整えられている。 ・年間計画として教員の授業研修、研究活動を取り入れている。 ・学会等において実践報告および研究報告を行っている。 ・教員の研究活動を教員相互で支援しあう体制がある。 ・文献検索システムが整えられている。 	3点	臨地実習指導に比べ、授業研究や授業方法、指導方法の改善について教員間での意見交換ができていない。組織的、計画的な研究への取り組みはできていないが、個人、又は少数で実施している。研究活動を行う時間的余裕、指導を受けられる体制が無い。文献検索システムが整えられた。授業研究は28年度の課題としてあげていたが計画できなかった。	学内教員が相互に助言し合える教員間の意見交換の場や機会を得られるよう検討したい。研究活動を計画的、組織的に取り組む体制が必要。研究計画段階から助言を受けられる体制があると良い。授業研究の計画は今後の課題である。プロジェクトチームを作成していくことも考える。まずは他の教員の授業に自由に参画し意見交換できる風土作りをしていく。	4点	研究授業や公開授業も必要であるが、まずは他の教員の授業に自由に参画し意見交換できる風土作りが大切と思う。

Ⅶ 広報・地域活動	39. 学校の広報活動を積極的に行っている。	ホームページ 学校説明会報告書 関連市町の広報年報	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページは受験生の求める情報を掲載し、定期的に更新している。 ・ホームページは卒業生の求める情報を掲載している。 ・学校説明会などには積極的に参加している。 ・広報誌などに学生募集や行事の様子など載せている。 	4点	ホームページの情報更新を行ったが、タイムリーにできない事もあった。卒業生が求める情報について内容や量が適切か確認が取れていない。学校説明会や広報誌での学生募集は積極的に行い、多くの参加者があった。学校行事や学生の状況などを新聞やテレビで紹介した。	ホームページでは特に学生募集に関する情報や地域に向けた情報は計画的に発信、更新したい。 年報の中で広報活動を評価していく。	4点	評価資料では、広報担当を中心に広報活動計画・評価がされているか不明である。
Ⅷ 広報・地域活動	40. 看護教育活動を通し地域社会への貢献を組織的にしている。	学校説明会報告書 学校祭総括年報 教育活動に関する新聞や広報の件数	<ul style="list-style-type: none"> ・講座や学校見学などの依頼には積極的に対応している。 ・学校祭には多くの地域住民が訪れている。 ・学校設備の地域への開放をしている。 ・学生には地域のボランティア活動への参加を促している。 	4点	学校見学や説明会は年間に6回行った。地域の要望に応えた生涯学習講座などへ講師は年間に9回派遣した。学校設備は津波非難ビルなどへの活用のため、避難訓練活動に協力している。学校祭には331人の参加があり盛況だった。学生は学習や学校活動に忙しくボランティアに参加する時間的余裕が持ちにくい。しかし学校祭での収益金を募金した。	教員の講座派遣や学生のボランティア参加は時間的余裕が無く、今後も参加はできる範囲となるが継続したい。組織として学校や学生が地域住民の方と触れ合う機会を増やせるか検討したい。	4点	評価資料に入学式・卒業式など行事も追加したい。新聞による地域への周知は貢献度が高いと思われる。
Ⅷ 広報・地域活動	41. 学校から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。	関連市町の広報 ホームページ 学校説明会報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・市町の広報を利用している。 ・学校のホームページを開設している。 ・地域住民に開放した学校祭を開催している。 ・要請に応じ学校説明や職業説明を行っている。 ・看護系志望の者に対し学校説明会を開催している。 	4点	関連市町の広報誌に学校行事などを掲載していただいた。学校ホームページの更新はできたが、学校行事のタイムリーな更新はできなかった。学校見学や説明会は年間に6回行った、本校への受験を検討している方が多い。 学校祭では地域住民の生活や健康増進に役立つ情報を提供している。 福祉のすすめや小学生の職場体験などの依頼を受け実施した。	学校見学会は学生募集に限らず一般市民の方の参加も呼びかけ関心を広げたい。 29年度は、学校祭では一般市民向け学校見学を計検討したい。	4点	評価項目について丁寧に評価されている。今後も継続が望まれる。

金子秀子
伊藤みどり
木島忍
亀澤ますみ

平成29年5月8日